



TITLE:

学会抄録 日本泌尿器科学会第7回
中部地方会

AUTHOR(S):

CITATION:

学会抄録 日本泌尿器科学会第7回中部地方会. 泌尿器科紀要 1957, 3(8):
530-538

ISSUE DATE:

1957-08

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/111488>

RIGHT:

学 会 抄 録

日本泌尿器科学会

第7回中部地方会

昭和31年11月3日

於 京都大学医学部

特 別 講 演

(I) 泌尿器科X線検査に於ける最近の経験

京都大学助教授 後 藤 薫

最近に於て実施して来た各種X線検査法の内、後腹膜腔気体撮影法、経腰の腹部大動脈撮影法、経静脈性腎実質撮影法、経腰の（直接的）腎盂撮影法、蹲位膀胱撮影法、X線写真連続撮影法、X線映画撮影法及び自律神経剤投与による尿管撮影法に就いて述べた（泌尿器科紀要3巻2号参照）

(II) 尿路結石に関する2, 3の問題

三重大学教授 矢 野 登

我々が施行した尿路結石に関する研究の中、特に尿石の溶解に関する業績を括め尚諸家の類似の業績をも参照し、多少綜說的に述べた。その内容は昭和27年以降「皮膚科紀要」、「泌尿器科紀要」に我々、山本美昭、森幸夫が次々発表したもののや一部投稿中のものが主である。

実験を行つた次の順序によつて講演した。

I E. D. T. A. 並びに Solution G の追試

a 尿石片の in vitro に於る溶解実験

{	灌 流
	浸 漬

b 臨 牀

II in vitro の尿石結晶質成分の溶解

III 尿石有機非晶型成分の化学的分析

IV in vitro の尿膠質の諸検査

a 尿膠質安定度の諸試験

b 尿膠質と酵素

c 尿粘度測定

V 尿石溶解の動物実験

ラッテ膀胱内に磷酸結石片並びに尿酸結石片を挿入、挿入直後より各薬剤経口投与、6過後挿入核の重量差測定。

VI 尿石溶解の臨牀応用

9名の上尿石患者に、グルクロン酸5g、又は Rowatin 6—12滴宛毎日内用、約2週間続行。1名は両者併用。

以上の各実験の後、現段階に於て我々は次の結論を得た。

1) 結晶質成分の in vitro 溶解試験では、他の薬剤は生体内の条件に近い濃度、pH、温度を用いた限りに於ては、現在臨牀局所溶解剤として用いられる1.5% E. D. T. A. 並びに Solution G は最高度の溶解を示した。

2) 尿石の有機非晶質成分の生化学的分析では次の各成分を検出した。

蛋白質、誘導蛋白、アミノ酸（チスチン）、レチチン様物質、硫酸粘液多糖類、硫酸非含有粘液多糖類、グルクロン酸（加水分解時）、尿色素、動物性ゴム様物質。

3) 尿膠質に就いての種々の実験の結果。

(a) Ca イオンが最も尿膠質を不安定化させる。依て過石灰尿を警戒すると共に、Ca イオンの不活性化を図る必要がある。

(b) 尿膠質の不安定化を阻止するものの中、グルクロン酸は最優秀である。その他所謂 Hydrotropische Substanz に属するものは多くこの性質を有する。

(c) pH 5.4 以上になると尿膠質は甚だ不安定となる。

(d) 尿石患者尿の粘度は低下している。

4) 尿石の成因並びに溶解を企図する場合、コロイド説と結晶質・塩類沈澱説が二主流をなすが、余等は双方同時説とでも云うべき実際の立場より出発したが、現在でもこの立場を支持する。

5) 尿石溶解の動物実験ではグルクロン酸の有効性を確認した。

6) 人体応用ではグルクロン酸単独使用7例中著効4、稍効2、無効1。

Rowatin 単独使用2例は2例無効。

両者併用1例は稍効である。然し上部尿路結石は自然排泄の機会が多いので、果して薬剤投与によつて容積減少を来し排泄が促進されたものか、両者の厳密な区別は困難である。

7) 尿石溶解法は現段階では手術の補助、再発防止その他特殊例への応用が主である。特に局所溶解法に於ては副作用も無視出来ない。

8) 余等のグルクロン酸の人体応用は、最近 Prien等のサリチル酸アミド等の内服により尿中抱合グルクロン酸を増加せしめ、手術後の尿石再発防止に有効であつたとの報告や、Harlin & Wiesel のグルクロン酸内服により尿石患者尿の表面張力を低下せしめ尿路結石に対し好結果を期待し得るとの報告によつて支持された感がある。我々の実験が、「尿石の全身的溶解法」に対し第一歩を進めたものであれば幸である。

(Ⅱ) 男子性器結核の研究

岐阜医大教授 近 藤 厚

性器結核の根治手術を行つた摘出標本の病理学的観察を基とし、臨牀統計を参考として、主として本症の病型と其の進展経過及び予後に就いて検討した。前立腺結核は最も難治なもので、その治療法、特に化学療法とその効果の判定に就いて述べる。

(Ⅳ) 水腎の機能回復について(臨床的考察)

名古屋市大教授 岡 直 友

水腎に対しては、可及的に腎保存的に治療を行うべきであると考え。水腎の機能回復能力に関しては先人の詳細な動物実験成績が見受けられる。当教室では、実際に人体において、腎保存的療法によつて、水腎がどの程度に機能を回復し得るかを研究しつつあるが、その数種類の臨床例について、これまで得られた経験を述べた。

本研究の目的にかなう腎機能検査法としては、臨牀的に繰返し検査を行い易く、しかも、比較的正確にその消息を示すものが好ましく、非圧迫性腎盂撮影法が最もよいと考えるので、今回はこのレ線的機能検査法によつて検討した所を述べた。

結石性水腎(12例表示)では、腎盂腎杯が中等度までの拡張を示すものでは、よし多少の感染があつても、結石(腎・尿管)除去術のみを以て十分な機能の回復を来し得る。

尿管狭窄による水腎(5例:尿管腔瘻例)ではかなりの拡張を来したものにして腎機能不良のものでも、尿管端々吻合術或は尿管膀胱移植術によつて、6カ月

～1年半内に完全な機能回復を来し得る。

尿管閉鎖(3例:婦人科手術時の側側尿管結紮)は閉鎖後50日～77日に同閉鎖解除と尿管吻合術を行つた。いずれも腎機能は不良なるか消失を来すかしていた。閉鎖解除後、最初1カ月～1カ月半は該腎の機能は回復し難いか或はむしろ悪化の途をたどつたが、その後は漸次回復し、2年後には、完全とはいひ難いが、先づ良好と云い得る機能並びに形態の回復を来した。

一腎の結核性廃絶者に來れる姉妹腎の著しい水腎においては、尿瘻形成により、中等度の拡張を来している結石性水腎よりも速な機能回復を来した。

超手拳大の腎盂像を現した、機能消失を来した感染性水腎(1例:尿管附着異常)も尿管腎盂整形術により、一時は腎機能の回復を見ざりしも、2年後には著明な回復を来した。

巨大水腎については未だ検討の機会を得ていない。

尿管完全閉鎖に由来した水腎の機能回復に関してはHinmanのいうrenal counterbalanceの問題があり、動物では姉妹腎が健康な場合には、尿管閉鎖が4週以上続いたものでは該水腎の機能回復は望まれぬというが、上述の症例からみると、人間では尿管完全閉鎖10週まではなお閉鎖解除後の機能回復の望みのあることを知つた。

一 般 演 題

1. 新淋菌株の各種抗生物質に対する感受性に就いて 大島升・倉岡雅男・山崎昭彦(大阪通信)

昭和30年1月より現在迄の男子淋疾患患者から分離培養した最も新しい淋菌株の14～18株に就いて各種抗生物質の試験管内発育阻止実験を行い、昭和25年及び昭和28年に発表した成績と比較検討した。Penicillinでは0.005～0.03 u/mlの発育阻止濃度を示し、昭和25年と全く同一である。Streptomycinでは2.0～10.0 γ /mlの発育阻止濃度を示し、昭和25年は1.0～6.0 γ /mlである。Terramycinでは0.05～0.5 γ /mlの発育阻止濃度を示し、昭和25年0.03～0.2 γ /mlに比しわずかに感受性の低下が見られる。Aureomycinでは0.05～1.0 γ /mlの発育阻止濃度を示し、昭和25年に於ける成績0.03～0.4 γ /mlに比し之もわずかに感受性の低下が見られる。Chloramphenicolでは0.2～0.7 γ /mlで昭和25年0.2～1.0 γ /mlと大差はない。Erythromycinでは0.3～0.7 γ /mlの発育阻止濃度を示し、昭和28年は0.3～1.5 γ /mlであつた。Tetracyclineでは昭和28年に分離した菌株と昭和30

年以後に分離した新しい菌株共に 0.03~0.3 γ /ml を示し全く差異を認めなかつた。

2. 我教室30年間の男子淋疾の統計及び統計学的に見た各種薬剤治療の比較 百瀬剛一・今井利一・岡本昭二(千葉大)

大正15年より昭和30年の間に教室を訪れ検査充分な男子淋疾者数7672名を、昭和12年前を化学療法期前、昭和13~20年をサルファ時代、昭和21年後をペニシリン出現後と大別し、急性淋並びに合併症の此の間における動揺を観察し併せて之等症例に用いた化学薬剤及びペニシリンの治効を理論統計的に検討した。即ち急性淋は社会状勢の如何と無関係にサルファ時代以後急激に減少、合併症も同様な傾向が伺われる。使用化学薬剤では、その治効は Diazin>Sulfathiazol>Acetosulfamin>Sulfamin>Pyridin 及び Pyrimidin>Trianon の順であり、治療速度は Trianon が最もまさり Sulfamin が最も劣る。サルファ剤とペニシリンとの治効の比較は困難ではあるが、治療日数の点からみるとペニシリンはサルファ剤にはるかにまさと云う事が出来る。

3. Dextromycin による尿道局所療法 新谷浩・酒徳治三郎・村上仁勇・河合裕太郎(京大)

2.5% Dextromycin 溶液を、非淋菌性尿道炎患者の尿道内に注入する尿道局所療法を数例の患者に施行して効果を得たので報告する。

4. 尿石症のX線回折法 多田 茂(三重大)

5. 骨盤腎結石の1例 矢野登・森幸夫・今中千秋(三重大)

患者は63才の男、主訴は血尿。半年程前から血尿及び左側腹痛を来し、レントゲン検査の結果、左輸尿管小結石の外に右腸骨部に鳩卵大の結石像を認めたので、右輸尿管憩室結石として手術したが、それが骨盤腎で腎外腎盂に鳩卵大の二個の結石を有し、この結石が輸尿管口を閉鎖して水腎様となつたものであると考えられる。なお右腎は検査の結果機能は全然認められず、左輸尿管小結石は Guronsan 投与により自然排出した。

6. 巨大尿管結石の1例 山本弘・石原藤太郎・北村孝男(大阪通信)

本邦文献上恐らく最大と思われる左側骨盤部尿管結石の1例を報告する。2個の葉巻状結石にして、1は長さ 8.0 cm 周囲 11.7 cm、重さ 71 g、他は長さ 7.1 cm、周囲 11.0 cm、重さ 59 g である。本症は

20年以上の長期にわたる病歴を有し、幸にも尿管切石術によつて結石剔除することが出来、以後患側腎の機能回復如何を観察しているので其結果を述べる。

7. 幼女児の膀胱結石例 前田 明(京府大)

荒○妙○：昭和29年4月30日生

初診：昭和31年7月16日

本年4月初めより時に頻尿あり、きばらぬと排尿のないことがあつた。4、5日前から外陰部に疼痛あり甚だしい時は5~10分毎に排尿あり、よく泣き、体を動かし、足をばたばたさせ腹圧を加えるので脱肛を来した。膀胱容量10cc以下のため膀胱鏡検査不能。カテーテルに結石感あり、Pneumocystogramにより結石陰影を得、膀胱高位切開により 2.3×1.5×1.0 cm 3.2 g の桑実様褐色結石を得た。主成分は尿酸塩、磷酸塩、炭酸塩であつた。幼女児尿路結石は解剖学的関係から殆ど総て膀胱結石であり、我国に於ては10才以下のものが昭和21年以降11例報告されている。サルファ剤、異物による3例を除き原因は不詳である。

追 加 小坂信生(金大)

男児、1才2ヶ月。主訴尿閉。初診昭和31年5月17日。母系祖母胆石症の外結石症(-)。発病昭和30年8月。レ線結石像2ヶを認め膀胱及び尿道結石と診断。尿道碎石術2回施行、その前後に計17ヶ、半小豆大迄の自然排石あり。成分チスチン 治療重曹及びクエン酸ソーダ内服。本年10月1日再び膀胱結石1ヶを認め経過観察中。

8. 膀胱異物による結石の1例 三矢辰雄・柏木正業・寛秀夫・高田一雄・前川 昭(名大)

某病院婦人科にて子宮癌の為子宮全別出術を施行した際誤つて止血に用いたガーゼを残遺せしめたが不幸膀胱壁を貫通し膀胱内に入り幼児拳大の結石を生じた症例を報告し、合わせて本邦に於けるガーゼに依る異物の為に結石を生じた文献を参照し検討した。

9. 巨大女子尿道結石症例 速水伸三・村上恭子・華岡洋子(関西医大)

20才8ヶ月の処女に見られた、重量 21.5g の尿道結石の1例に就いて報告しこれに文献的考察を加えた。本例に於ては憩室の存在は認められず又原発性が続発性かを決定する事は困難であつた。外尿道口及び陰壁切開により結石を摘出した。結石は炭酸石灰及び尿酸石灰を混じた磷酸結石であつた。年令的に若い処女にこれ程大きな尿道結石を見た点に於て稀なものと思われる。

10. Grawitz 腫瘍症例追加 外松茂太郎・前田 明・久保泰徳・六車勇二 (京府大)

過去1年に経験した Grawitz 腫瘍の3例を追加する。①52才男(左側), 奥〇孫〇エ〇, 初診31年4月12日。主訴は無症候性血尿, 剔出腎の大きさは 12.0×9.5×5.0 cm, 重さ 340 g で腫瘍は下極に発生している。組織学的に定型的な 副腎皮質様構造を見る他に諸所に腺様構造の像を認める。②58才男(左側), 中〇正〇, 初診31年6月11日。主訴は血尿及び左腰部疼痛, 剔出腎の大きさは 13.0×7.5×5.3 cm, 重さ 300g で腫瘍は腎中極に発生している。組織学的所見は定型的な像を示している。③44才男(右側), 小〇林〇, 初診31年8月23日。主訴は血尿及び全身倦怠, 剔出腎の大きさは 14.5×6.8×10.0 cm, 重さ 437 g で発生部位は上極である。組織学的に定型的な 像の他に一部腺様構造を示す。次に過去6年間に腎摘出を行つた12例の中, 1例は術後2ヶ月で術創筋肉内に再発し1年で死亡。2例は夫々, 2年9ヶ月, 1年1ヶ月で肺に転移, 1例は3年5ヶ月で肺及び肝に転移を来している。又組織学的に12例中8例に定型的な副腎皮質様構造の他に多かれ少かれ腺様構造を認めており, 我々は所謂 Grawitz 腫瘍の多くは腎実質, 特に尿細管起源であるとの見解を強調する。

11. 原発性尿管腫瘍の4例 金沢 稔・西川恵章・的場昭三 (和歌山医大)

症例1. 60才, 男, 主訴: 無症候性血尿, 膀胱鏡的に右尿管口に乳頭様腫瘍を認め, 右腎機能喪失, 手術に際し, 右尿管に原発した腫瘍が膀胱内に突出したものである事がわかり, 尿管切除術を施行。組織学的には移行上皮癌であつた。患者は術後2年半の現在尚健在である。

症例2. 56才, 男, 主訴: 血尿, 左下腹部痛及び左腰痛。Pneumoretroperitoneum で左尿管に突出像を認めたので, 3年前に撮影した腎盂尿管レ線像を精査して初めて左尿管下1/3の部の陰影欠損像を認めた。尿管切除術を施行, 腹部大動脈壁及び淋巴腺に転移を認む。組織学的には単純癌であつた。

症例3. 43才, 男, 主訴: 無症候性血尿, 尿管カテーテル挿入可能, 腎盂尿管撮影にて腫瘍による陰影欠損あり。尿管切除術施行, 組織学的に単純癌であつた。患者は現在コバルト放射線療法を受けつつある。

症例4. 67才, 男, 主訴: 左腰痛, 血尿。手術に際し本症であることを確認した。

12. 興味ある膀胱癌症例 三国友吉・平山栄一

(和歌山日赤)

患者53才男。主訴終末時血尿。膀胱鏡検査にて頂部に限局して小鶏卵大の明らかに癌腫を思ふす腫瘍あり。膀胱頂部癌の診断のもとに膀胱部分切除術施行せる所, 該腫瘍の本体は膀胱後壁に於て筋層乃至外壁にかけ浸潤増殖せる超鶏卵大の腫瘍なること判明す。組織学的所見上腺癌一部粘液癌の像を示し一部に著明な石灰化像を見る。その位置的關係及び組織学的所見より尿管腫瘍と推測せらる。

13. 膀胱癌の剖検例 前川正信・荻田敬次(阪大)

63才, 8, 陰茎の疼痛性腫脹発生6ヶ月後, 成形性陰茎硬結症として4ヶ月間 V. E. 投与後に尿閉と下血, 尿失禁を来して入院, 検索せる所膀胱の悪性腫瘍であつた。レ線深部照射を主として治療するも入院約8ヶ月にして死亡した。経過中陰茎は軟化融解消失し類円形, 小児手掌大の潰瘍と化した。病理解剖の結果, 膀胱癌, 心筋転移, 右萎縮腎の所見を認めた。

14. 主として前立腺癌に対する Honvan による治療成績 金沢 稔・西川恵章 (和歌山医大)

吾々は Diäthylidioxystilben-diphosphat (Honvan) を, 前立腺癌5例, 前立腺肥大症5例に使用し, 前者の全例に於て著効を認め, 後者の3例に於て著効, 2例に於て無効なるを認めた。殊に肺転移を有する前立腺癌の1例に於て転移病巣が全く消失した事は注目に価する。詳細は原著に譲る。

追 加 清水圭三・柏木正業・前川 昭 (名大)

前立腺癌により前立腺摘出後約1年後に再発尿蹊リンパ腺転移並恥骨破壊骨盤骨転移をなした患者に対し Honvan 250mg×12 施行した症例に就いて報告した。自覚症状たる疼痛並びに坐骨神経痛は訴えなくなつた。他覚症状としてはX線写真は注射前と略同様の骨破壊は認められた。其の他血液像, 酸フォスファターゼは変化なく, アルカリフォスファターゼは正常値より稍増加, 総蛋白量は稍減少を示した。目下使用中にして他日其の成果に就いて詳細に検討御報告致したい。

15. 畸型腫の1例 前川正信・児玉正道・林威三雄 (阪大)

白坂某, 29才, 8, 2才頃より左睪丸の腫脹あり, 疼痛を訴えたことはない。徐々に増大し, 特に本年初頭より顕著に大きくなつた。24才時, 結婚するも妊娠

せざるため来院，睪丸腫瘍の診断の下に別出，10~20 cm の毛髪よりなる瘤型腫であつた。

16. 睪丸腫瘍の組織発生論に対する一考察 酒徳
治三郎・三浦武芳（京大）

原著（泌尿紀要3巻4号）参照。

17. 経腹腔的尿管切石術 百瀬剛一（千葉大）

尿管結石数例に経腹腔的に尿管切石術を試みたが操作簡易であり，且つ化学療法に進歩した今日安全に実施し得る術式と考えた（泌尿器科紀要3巻3号参照）

18. 巨大膀胱に対する膀胱部分切除術 石神襄次
・齊藤 広（大阪医大）

26才，♀。主訴尿閉逆行性腎盂撮影，膀胱粘膜，P. S. P. 青排せ試験，尿化学検査，ミエログラフイー等，共に異常なく，血液検査陰性。膀胱容量1340cc 巨大膀胱及び括約筋麻痺と診断し，膀胱高位切開術にて，膀胱前壁を約5 cm² 菱形切除及び内尿道口切開を行つた。術後，持続導尿を約20日間行つた。膀胱容量は350 cc 排尿回数は1日5~6回，残尿は30~50 cc となつたが，再び遷延性排尿を訴える為，ブジー挿入，経尿道的膀胱括約筋の電気切開術を行つている。

19. 尿路の再建一弁を有する迴腸膀胱 白羽弥右
衛門・原田直彦・佐野信雄・成川康夫・津田利
信・岩出千鶴子・福山謙四郎・小田和夫（大阪
市大外科）

前部骨盤臓器全剔除術後に，迴腸分節を用い，尿管一腸管一尿道吻合術を行つた事は既に報告したが，これの最大の欠点である尿失禁に対して，私達は重畳法を用いて，尿貯溜可能な術式を，創案した。レントゲンによつても，膀胱内圧曲線によつても，尿貯溜には成功した事を証明できた。しかし，術後40日以上経てから，漸次，電解質の吸収が大となる傾向があるので，この点を解決すべく，現在追究中である。

20. 尿管膀胱移植の2例に就いて 清水圭三・大
森敏直・柏木正業・吉川康史・瀬川昭夫・前川
昭（名大）

先天的に膀胱前庭部に右腎の尿管が開口しあり常時排尿せし患者に尿管を膀胱に移植せし患者に就き興味ある所見を得た。今一例は右尿管が先天的に肥大している患者に対して，行つた例も合せて報告する。

21. Stress Incontinence に対する Marshall-
Marchetti-Krantz 手術 黒田恭一・小坂

信生（金大）

女子の Stress Incontinence の3例（23才，36才，42才）に対して，Marshall-Marchetti-Krantz 法による恥骨上膀胱尿道固定術を施行し，術後全例に尿失禁の完全消失と共に，尿道膀胱レ線像にも著明の改善が認められた。而して2.5乃至3カ月の遠隔成績に於ても，満足すべき結果を得ている。尚本疾患の診断及び手術効果判定上重要視せられる尿道膀胱レ線撮影法（鎖使用法），並に手術的治療法全般に関しても言及した。

22. 尿失禁の手術例 加藤晋造・上田氏典（神戸
医大）

神経因性の尿失禁の場合この膀胱の括約不全のための尿失禁の整形術には，Deming 式手術の様に括約筋の代用物を作る方法の外に，膀胱頸部を引き上げて恥骨に固定する方法がある。後者の代表的手術として腹直筋及びその筋膜によつて膀胱頸部を吊り上げる Goebell-Frangenheim の術式があるが，我々は6才の男児の仙椎披裂の手術後に発生した背髄性と思われる尿失禁にこの手術を行い，術後1時間位の間隔で尿意を感じて排尿する様になり，好成績と思われる1例を経験したので報告する。

23. 前立腺摘出術について 石山勝蔵・渡辺克・
篠田孝・尾関信彦（岐阜医大）

- 1) 骨盤腔内手術10例に Cherney 氏横切開を追試した。本法によれば，視野広く手術装作が非常に楽であつたが，縫合部浮腫・創哆開の機会が多かつた。
- 2) 前立腺摘出の際その被膜切開に当り，10例に前立腺膀胱切開法を行つた。膀胱切開創より尿が漏れ易い為，腹壁の創に Penrose-drain を用い，更に前立腺側方の骨盤靱帯を切開して，之より傍肛門排液法を行い満足すべき結果を得た。術後の睪上体炎予防の為に鼠径管より膀胱背側に入る間で精管を切断し，又凝血による留置カテーテルの閉塞を防ぐ為に，低圧持続吸引器を使用して好結果を得た。

追 加 大村順一（岡大）

前立腺膀胱切開法と恥骨後法（Millin）との両者では，教室の小松が後者の方が出血量，術後の腎機能，蛋白の影響についても良いと発表しているが（岡山医学会誌昭和29年），演者はどう云う意味で前立腺膀胱切開法がよいと云われますか？

答 石山勝蔵（岐阜医大）
Millin の原法に比し，膀胱前立腺切開法は手術術

式の点より見ても、患者に対する負担の点からも勝れていると考える。只、膀胱切開創よりの尿漏出に注意し、排液と感染防止に留意する必要がある。

答 近藤 厚(岐阜医大)

我教室では目下この前立腺膀胱切開法による術式を採用する場合が多い。

24. Squire 氏恥骨上前立腺摘出術の検討 添田 紀三郎(高知市)

前立腺肥大症の手術として、現今 Millin 氏法が主流をなしている観があるが、私は Squire 氏の所謂 intraurethral blind Enucleation を試みた数例の経験から本法を検討し、①手技が容易である、②手術的侵襲が少ない、③手術時間が短かくてすむ、④不快な後遺症がない、等の長所よりして試みるべき方法であると推奨する。

25. 症例 1) 腎被膜剝離術の奏効せるスルファミン無尿症の1例

2) 条件の悪い ((i)高令者(ii)高血圧で腎機能不全)の前立腺剔除例。 原口泰彦・井口久男・山脇春夫(北野病院)

1) 28才女子 スルファミン2日間投与後欠尿症を惹起、5日後右腎被膜術施行、翌日より排尿あり、治癒す。

2) 83才老衰可なり強き者及び72才で血圧210腎機能2時間値20%の前立腺肥大症の患者に前立腺剔除を行い何れも好結果を得た術式は仙骨キシロカイン麻酔、恥骨上方式によつた。

26. 泌尿器科手術に於けるトロンビンの応用 大矢全節・山田瑞穂・柳井哲雄・西浦 力(国立京都)

手術に際して、結紮その他で止血し難い出血に遭遇することが少なくない。かかる出血に対して、トロンビンを試用し、有効なる止血効果を得た。即ち、腎切石術・皮下破裂腎剔除・結核腎剔除・膀胱腫瘍剔除・前立腺肥大症及び前立腺癌の剔除に際して、スポンゼルにトロンビンの生理的食塩水溶解液をひたして、出血部をおさえ或は溶解液を撒布して、充分なる止血効果を得た。試みてもよい一手段と考え報告した。

追 加 小林勝三(横浜大)

トロンビン(持田)を膀胱出血、及び腎切石術、腎部分剔除術、前立腺剔除術等の止血に用い好成績を得た、また塩析法による自家製フィブリノーゲンを使用

しフィゴリンコアグラムによる小結石破片摘出に成功した、詳細原著。

追 加 鮫島 博(久大)

吾々の教室でもトロンビンを、特に膀胱出血に対する洗滌剤として使用し従来のボスミン等より遙かに良好な成績を得た。使用液の濃度は動物実験の成績を根拠として $5\mu/1\text{ cc}$ 液を用い、一回の使用量は100 cc を限度とした。対称は膀胱結核、膀胱癌、出血性膀胱炎、膀胱乳癌腫、及び膀胱結石等でスライドに示す如く可成り良好な成績を得、膀胱洗滌剤としても使用の価値があるものと考えられる。

27. 泌尿器外科手術に対する硬膜外麻酔の応用、

附アイクル注射器について 稲田務・後藤薫・大森孝郎・仁平寛己(京大)

泌尿器科領域の手術、特に膀胱高位切開、前立腺膿瘍切開、尿道成形術、外尿道切開術、副睪丸剔除術、除睪術等に際して2% Xylocain 溶液30 cc を使用して仙骨麻酔を行い、その麻酔効果に良い成績を得た。又少数例ながらアイクル注射器による硬膜外麻酔も同様に1例も副作用なく良い麻酔効果を得た。今後症例を重ねてその麻酔効果、副作用等について検討する予定である。

28. Urografin による無圧迫腎盂撮影法 河崎 屋三郎・福村 亮(金大)

Urografin (Schering) による排泄性腎盂撮影を施行し、特に圧迫帯を使用せざる撮影法を主とし、種々の点より検討した成績を述べる。

追 加 後藤 武(名市大)

約3年前より非圧迫性腎盂撮影をウロコリン(30%及び70%)を使用して行つてゐるが、ウログラフィンの販売されるに至り同一人に於て同一濃度並、30%、50%ウロコリンを使用して比較した。その結果ウロコリンに於いても何らウログラフィンよりおとる処をみとめず、かえつて腎盂像はウロコリンの方が鮮明にみとめられた。

29. 排尿動の研究(第2報) 三矢辰雄・三矢英輔・浅井順・牛田隆雄・須山敬二・瀬川昭夫・細江謙三(名大)

生体レ線映画により尿路を撮影し、その排尿運動並びに機序について述べる。

30. ゼリー状尿道造影剤の試み 小田完五、雨森 幹(京府大)

尿道造影剤として我々は沃那 30g Carboxymethyl cellulose 3 g 水を加えて 100 cc としたものを試作してこのものが尿道造影剤として適当であることを見出した。pH は 7.0 粘稠度も可成り高く黒化度は 20% モルヨドール或は 40% ピラセトン C とほぼ同一或はそれ以上に良好であつた。尿道炎等を続発することもない、欠点として局所の疼痛が強かつたが、これは術前に尿道の局所麻酔を行うことによつて全く無痛的に行い得た。数例の写真を供覧し、鮮明な像が得られ、膀胱頸部の識別が可能なこと及び膀胱尿道撮影にも併用出来ること、尿道静脈逆流現象の起る率も少く、水溶性であるためエンボリーを起す危険も少いことを述べた。

質 問 原田直彦 (大阪市大外科)

その薬剤の粘稠度は如何ですか、相当圧力を要するのですか。

答 小田完五 (京府大)

我々の試作したゼリー状造影剤の粘稠度はオリーブ油を 1 として 6 であり、20% モルヨドールと 40% モルヨドールとの中間に位していた。又 CMC の濃度を加減することにより随意の粘稠度を得られる利点がある。

31. 腎水腫の統計的観察 藤野文雄 (名古屋市大)

最近数年間に於ける腎水腫に対し統計的観察を行い、性別、年齢、原因、腎機能及びその治療に就いて観察したが、詳細は原著に護る。

32. 左側腎欠損及び右側尿管開口異常兼膀胱欠損の 1 例 石川昌義・杉村克治 (奈良医大)

膀胱欠損は本来稀有なる奇型で、成人にまで達する事は極めて稀であるが、我々は最近 25 才の女子にこれを見尿路の変換を行い一応の成功を修めた。頻尿と尿失禁を主訴として受診した。尿道は閉塞し尿は腔より流出する試験的開腹をなしたが膀胱はなく尿管は直接腔に開口し、更に左側腎及び尿管の欠損を確認した。尿管 S 状腸吻合術を行い術後 5 カ月余の現在良好に経過している。

33. 腎周囲炎と思われる 1 例 黒田政重・松浦 滋 (神戸医大)

59 才の女子、約 2 カ月程前より右背部及び右腰部疼痛を主訴として当科外来受診、触診上右腎 2 横指触れ硬くインジゴカルミン、水試験で腎機能正常、尿に著変なし、排泄性及び逆行性腎盂撮影で右腎陰影欠損するので右腎腫瘍の疑にて右腎切除術施行。切除腎は

4.5×9 cm 重さ 145 g、周囲との癒着少く下極のみで常の色を呈し大半は暗赤色を呈して居た。腎被膜の割面には Eiter mope を数カ所に認めた。組織検査では腎被膜は多核白血球、淋巴球、組織球よりなり慢性に細胞浸潤を認める。その間に出血巣著明でヘモジデリン沈着を認める結合組織細胞は増殖して居る以上慢性糸球体腎炎に続発したと思われる腎周囲炎の 1 例を報告した。

34. 乳糜尿症について

- 1) 泌尿器「だに」による発症
- 2) スパトニン (田辺) による治療
片村永樹、村上仁勇 (京大)

1) 乳糜尿はかならずしもフィラリア症とは関係ないことは、つとに論じられていたが、我々は「だに」によつておこつた乳糜尿症について、そのビエログラフィーと共に報告した。

2) 乳糜尿症に、スパトニンをを用い全治せしめた症例について報告した。

35. 興味ある 2, 3 の症例

- 1) 膀胱頸皮嚢胞の 1 例
- 2) 先天性尿管弁膜形成の 2 例
- 3) 痛風に合併せる尿酸結石症の 1 例
八田栄造・山崎巖・片村永樹・麻生田幸雄・卜部敏人 (京大)

1) 56 才の♀、膀胱炎症状にて来院、毛髪尿をみず、膀胱鏡にても頂部より懸垂した結石を認めるのみであつたが、高位切開により膀胱デルモイドで右卵管より続発性のものであることが判明した。術後の経過は良好である。

2) 23 才の♂、及び 26 才の♂にて、尿管に先天性弁膜形成あり且腎水腫及び尿管結石を合併せる症例を経験した。

3) 55 才の♂。肥満体にてかねてより痛風があり血尿を来たして来院。尿酸結石を手術によりとつたが、患者血清、尿につき詳細に Ca. P. 等につき論じた尚本邦第 1 例である。

36. 尿管瘤の外尿道口脱出例 小坂信生 (金沢大)

19 才、女。主訴外尿道口に脱出する腫瘤。初診昭和 31 年 6 月 26 日。発病同年 5 月。現症外尿道口に拇指頭大、円形、暗赤色の腫瘤の脱出を認め整復可能。膀胱鏡上左尿管口部に円形の膨隆あり、レ線陰影欠損 (+) インジゴは右正常、左 (-) P. S. P. 計 46%。診断左尿管瘤。同年 7 月 20 日膀胱高位切開にて

電気切除術を行ない主訴は解消し、左尿管口よりインヂゴの排泄を認め、造影剤の左尿管逆流現象(+)左水腎及び水尿管症は軽快した。

38. 婦人科的手術に續発した尿路損傷例に就いて
藤野文雄・後藤 武(名古屋市大)

子宮癌、子宮筋腫、卵巣囊腫、に対する全摘出術後の尿路損傷例、即ち尿管腔瘻、尿管閉鎖、膀胱腔瘻の症例をあげ原因的考察を行った。更に分鏡穿額術後に発生した尿失禁例を併せてのべた。

39. 排尿困難に対する内尿道口切除の一例 清水
圭三・岩田忠男・佐藤忠敏・牛田隆雄・須山敬
三・小野猛雄(名大)

患者:45才,男。僧侶既往歴:異常なし,現症:5年前より急に尿線細くなり,残尿感を訴える様になった。臨床上全く異常なく前立腺も肥大していなかった。経膀胱切開術を行う。

先ず型の如く皮膚切開を行い,膀胱に達す 膀胱に切開を加え,内尿道口に達す 硬度やや硬く,その一部を切除ネラトン通し術を終る。組織学的所見・腺成分は出ていないが筋肉線維は肥大,結締組織成分の増加を認める。

40. 膀胱及び腎盂内圧の研究 後藤薫・仁平寛己
日野 豪・山崎 巖(京大)

Leberman 考案の新自動膀胱内圧測定器を用いて正常人及び各種膀胱疾患に於ける膀胱内圧を測定した。Knipper の方法に準じて Spezial-Druckmesserät (Atlas-Werke A. G.-Bremen)を用いて腎盂内圧を測定した。

41. 前立腺疾患と血清 SH に就いて 三矢辰雄
・三矢英輔・瀬川昭夫(名大)

Schacter 等は腫瘍と血清 SH に関する動物実験を行い,両者に相関々係を認めた。吾々は血清 SH を電流滴定法及び Flesch 法で測定し,正常人では2 mg/dl 前立腺肥大症では1.5~2 mg/dl 前立腺癌は1 mg/dl その他皮膚癌,膀胱腫瘍でも低値を示した。前立腺疾患の治療判定には,SH 値が十分に恢復する迄治療を継続する事が必要であり,酸フォの定量よりも有効と考える。

42. 精液膀胱内逆流症 森 昭(大阪医大)

無精液症で射精後尿中に精液及び多数の精子が認められ,故に精液は射精管より排出されるが,後部尿道に高度の狭窄が存するため射精に際し外尿道口より排

出されず,膀胱内に逆流すると考えられた2症例を報告する。

43. 精液瘤の2例 小林 浩・森 秋津・南川清
海(神戸液済会)

23才の未婚会社員の右副睪丸頭部に於ける鳩卵大,25才の未婚船員の右副睪丸頭部に於ける2個の小豆大の囊腫を得て,組織学的に検索して何れも輸入管より発生したものであることを知った。精液瘤乃至副睪丸部囊腫に関しては従来より非常に多くの名称があり,混乱状態にある様だが,我々は精液路に生ずる囊腫という意味で広く精液瘤なる名称をとるか,あるいは副睪丸部囊腫で総括してよいのではないかと考えた。

44. 人体辜丸組織の体外培養 石神襄次・高木峻
徳(大阪医大)

人体泌尿生殖器組織の体外培養による研究の1つとして先ず人体睪丸組織の体外培養を行う,先に性腺刺激 Hormon を培地に添加して報告したが今回は更に下垂体兼胎盤性性腺刺激 Hormon としてSynahorin 卵胞 Hormon, Cystin 多種類の chondroitin 硫酸等を培地に加えてその發育に及す影響を観察した。

45. 尿道敗血症例 門脇和敏・山口武津雄(大阪
市大泌尿器科)藤田栄一(〃 内科)鶴原辰雄
玉置昌弘・山元貞彦(〃 病理)

46. ボーラログラフイーの泌尿器科的応用 杉山
喜一・片村永樹・玉置明(京大)

1. ボーラログラフ蛋白波を結石患者尿で検査し,その波高と尿中ムコプロティン量との関係のみ,保護膠質の結石症に於ける役割及び本態についてのべた。

2. 腫瘍患者血漿のボーラログラフ変性蛋白波をとり,その後衝液のことによりつて,第Ⅰ反応と第Ⅱ反応とし,その比を蛋白係数とする意味についてのべ,各種尿路腫瘍の蛋白係数を比較検討し,疾患の診断,予後の判定につき,それぞれ具体的な症例をあげてのべた。

3. ボーラログラフによるエストロジェン,アンドロジェンの測定についてのべた。

47. Pyramide INAH 併用による尿路結核の治療について 稲田 務・大森孝郎・八田栄造
・杉山喜一(京大)

腎,膀胱結核,両腎結核,前立腺及び膀胱結核,の諸例に INAH 200 mg 及び Pyramide 2.0gr を連日投与約1ヵ月~2ヵ月間に渡り経過を観察したが見

るべき効果を認めたので報告した。

48. Albamycin (Viomycin) の泌尿器科的応用
石神襄次・高木峻徳・森 昭・齊藤 広(大阪医大)

新抗生物質 Albamycin (Viomycin) を尿道淋 6 例(急性 4 例, 慢性 2 例), 急性膀胱炎 6 例, 腎盂炎 3 例, 膿腫腎 1 例, 計 16 例に対し Albamycin 250mg 錠, 1 日 1g, 2~5 日連続投与した, 尿道淋 6 例中急性淋疾 1 例に対してやや効果を認めた。急性膀胱炎中葡萄球菌による 2 例には著効を認めたが大腸菌性膀胱炎 4 例では 2 例に症状の軽快を見るに止まった。腎盂炎 2 例中 1 例に有効, 腎膿腫には有効であった。一般に葡萄球菌性感染症には著効を認めたが, 淋菌, 大腸菌に対する効果は顕著でなかった。

49. 人工腎の研究(第一報) 三矢辰雄・清水圭三・大森敏直・三矢英輔・柏木正業・佐藤忠敏・浅井順・吉川康史・須山敬二・牛田隆雄・瀬川昭夫・前川昭・蔡衍欽(名大)

我々の人工腎は血液容量 1 L, 透析面積 16400 平方厘還液流量 175 L, 血液は Rosenak 型血液ポンプで送り流量は毎分 200 cc を基準とする。セロファンチューブを円筒型中枠に巻き外枠を固定して内外枠間隙を 1 mm ± 0.25 mm に保つ。pH は 7.4 に保ち, 恒温装置は島津製アクメサーモスタットを使用, 還液液は液槽底部の攪拌翼を毎分 60 回転せしめ攪拌す

る。動物実験は犬 6 頭に行つたがいづれも認むべき副作用は無かつた。ズルファミンを大量投与し 1 L 宛 NaCl 6g, KCl 0.4g, NaHCO₃ 2g, Glucose 10g, MgCl₂ 0.1g, CaCl₂ 0.18g, NaH₂PO₄ 0.05g の組成を有する透析液に対して行つた成績は以下の如し

	開始時	45分後
ズルファミン	110 mg%	27 mg%
尿 素	124 //	106 //
尿 酸	0.13 //	0.09 //
血 糖	52 //	70 //
無 機 磷	35 //	24 //
クレアチニン	18 //	17 //
カリウム	13.5 //	11.1 //
ナトリウム	114.5 //	129.3 //

	開始時	20分	45分
血 色 素	105 %	45 %	45 %
白 血 球	13400	7800	4000
赤 血 球	662×10 ⁴	295×10 ⁴	232×10 ⁴
呼 吸	35	36	36
脈 搏	190	130	130

学 術 映 画

Cancer of the Prostate (American Cancer Society)

TUR of the Prostate (Dep. of Urology, S. U. of Iowa)

小野薬品の
新薬紹介

ONOCAINE

コカイン無用化す 鎮痛・止痒
新・局所麻酔剤



非麻薬

オノカイン

【文献送呈】
◇名大◇外 科
◇神大◇眼 科
◇京大◇泌尿器科
◇阪大◇皮膚科
◇慶大◇産婦人科
◇東大◇耳鼻科
その他

★麻酔力はコカインの1000倍
★価格はコカインの $\frac{1}{3} \sim \frac{1}{25}$

(包装) 十倍散 溶液
ゼリー(尿道麻酔) 軟膏(止痒)

ONO PHARMACEUTICAL CO., LTD. 大阪市東区道修町2 小野薬品